

2018年度国際化に関する外部評価を受けて

副学長・教育支援本部担当常務理事 熊田泰章

大学評価委員会経営部会国際化評価グループによる2018年度「法政大学国際化に関する大学評価報告書（経営部門）」が確定し、学外有識者としての外部委員の視点から、本学の国際化の取り組みについて、多面的に点検評価を受けることができた。前年度の2017年度には、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU事業）」採択による事業開始から4年目として、これまでの進捗状況に関して中間評価が実施されており、その結果を受けて、SGU事業の支援期間後半とそれ以後についての見通しを立てることに全学で取り組み、国際化促進の道程を再確認することができた。この節目の重要な年度にかかる2018年度の国際化に関する点検評価においては、[評価項目]として以下の5項目について、資料と大学役職者インタビューに基づき総合評価をいただいた。

- (1) SGU 構想調書に記載された取り組みの進捗状況について
- (2) SGU 中間評価結果への対応状況について
- (3) 課題解決型フィールドワークについて
- (4) 日本語教育の充実化について（正課カリキュラム、日本語教育プログラム）
- (5) 派遣・受入れ学生の生活支援、キャリア支援および危機管理について

その結果、報告書に記されているように、

国際化、ガバナンス改革、教育の改革的取組を、全学をあげて推進してきている。

構想調書に掲げた施策の多くが実施に移されているほか、全学的な議論を重ねた結果、方向性について意思統一が図られ、本格実施に漕ぎ着けたものもある。

学長を中心とする執行部が方針を示しながら、丁寧な対話を重ねたことで、大学全体が大きく動き始めたことは、本事業採択の大きな成果といえる。

国からの補助額が当初予定から大幅に縮減する中、独自財源の投入増を行いながら、国際化、ガバナンス改革、教育の改革的取組を着実に進めていることも十分に評価できる。との励ましとなる総合評価を受けることができた。

加えて、中間評価の受け止め方に関して、

いくつかの定量的項目でSGU構想調書の目標値を下回っているが、目標への到達をより長期的な視野で捉え、法政大学が追求するグローバル人材育成の本質を見失うことなく国際化を推進したいとする方針を支持したい。

との評言により、本学における議論に対してご理解をいただいている。

また、今後の展開に向けてとして、

SGU事業を通じた教学改革により、教育の質のさらなる高度化を進め、そのことが研究の高度化につながり、高い研究力が質の高い教育につながる好循環をつくりだすことで、アジアの中で一層存在感のある大学として発展することを期待したい。

とのご助言をいただいたことにより、HOSEI2030によって本学の目指すものの重要性を改めて肝に銘ずることができた。